

秦野市はだの丹沢クライミングパーク

指定管理業務 令和 7 年度事業計画書

《目 次》

1. 指定管理者の構成
2. 管理運営方針
3. 事業の概要（維持管理、利用促進、利用者対応、
事故防止等、地域連携）
4. その他の事項

令和 6 年 9 月 30 日

神奈川県公園協会・小田急電鉄共同事業体

1 指定管理者の構成

私たちは、公益財団法人神奈川県公園協会（以下「グループ代表」）と小田急電鉄株式会社（以下「小田急」）の2社で構成するグループです。

グループ代表の豊富な指定管理実績と小田急の交通ネットワークや広報・企画力を融合し相乗効果を発揮することで、本施設の設置条例の目的を達成し、その機能を最大限に高め、良好な利用者サービスの提供と費用対効果の向上を図り、利用者の満足が得られる管理運営を実現します。

また、神奈川県山岳連盟と連携しスポーツクライミングの普及振興を図ります。

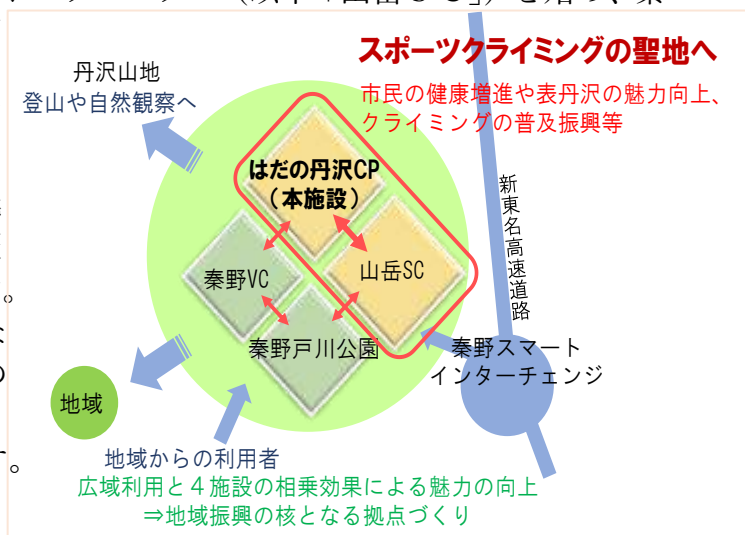


2 管理運営方針

山岳スポーツセンター等と一体となった管理運営

本施設の管理運営に当たっては、山岳スポーツセンター（以下「山岳SC」）を始め、秦野戸川公園や秦野ビジターセンター（以下「秦野VC」）の指定管理者として、連携しながら一体的な運用を行うことで、全国的なスポーツクライミングの聖地としての魅力を高め、市民の健康増進や表丹沢の魅力向上と観光振興、クライミングの普及振興と利用者の裾野の拡大を図っていきます。

また、秦野市や神奈川県などと連携しながら、本施設を含めた4施設の広域利用の促進と相乗効果による魅力の向上により、地域振興の核となる拠点づくりを進めます。



1 施設等の維持管理

利用者の安全を最優先に、確実な巡視と保守点検、適切な修繕を行うことで、予防保全を基本とした施設の長寿命化と利用者の安全で快適な利用の確保を図ります。

特に、ボルダー壁の安全確保については、山岳ＳＣを維持管理してきたノウハウを生かし、壁管理に精通した職員による日常点検やルートセットに合わせた専門業者による点検を確実にを行い、異常の早期発見と早期対応を行うなど、安全な施設管理を実施します。

ア) プレーイングクオリティを保つウォール管理

ウォールの点検：日常点検により異常の早期発見に努め、利用者が安心して利用できる環境を保ちます。安全上の問題が見つかった場合には、利用制限を行い、市と調整のうえ早期対応を行います。

魅力あるルートセット：ボルダー利用者の拡大を図るため、利用者目線による魅力あるルートセットを日ごろから検討し、ホールド設置を行います。



イ) 秦野戸川公園と一体となった広場空間の維持

本施設周辺の広場が公園の一部として機能するよう美観を維持します。

草地管理：利用者の滞留場所としての機能を保ち、ヤマビルの発生を抑制するため、小まめな草刈りを実施します。

樹木管理：定期的な軽剪定に加え、日常巡視における枝折れや倒木等の早期発見と早期対処を行います。

花壇管理：公園のチューリップ等の大規模花修景と併せた植栽等、四季を通じた花の魅力向上を図ります。

四阿等屋外施設：施設の劣化や破損等を早期発見します。



ウ) 清掃業務

施設の美観と衛生を維持し、利用者の満足が得られる維持管理を行います。特に、ウォール周辺や衛生面への配慮が必要なトイレや更衣室は、定期的な清掃に加え、繁忙時には随時清掃を行うなど、こまめな清掃を行います。



エ) 警備業務

日常的な巡視による警備：開館中は職員による見回りを随時行い、ゴミや危険物の確認、利用指導等を行い、利用者の安全を守ります。

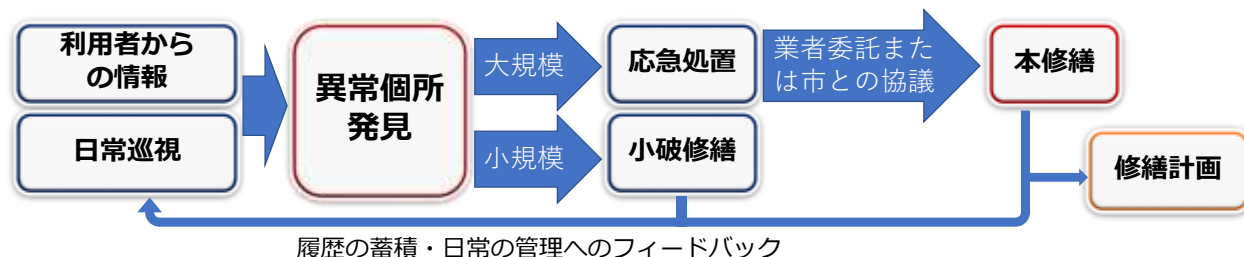
閉館時や休業日の警備体制：機械警備を行います。異常があった場合は、警備員が現場に急行して応急対応を行うとともに、市や警察等に報告、協力を要請します。

オ) 設備の保守管理

利用者の安全を最優先とした保守点検・修繕の実施：放送設備や機械設備等の動作確認

や目視巡回などの日常点検は職員で実施し、法令等に基づく定期点検などは専門業者に委託して実施します。

計画的な修繕と保守点検：保守点検や修繕を行った場合は、以後の維持管理へ反映させることで、異常箇所の早期発見と安全で効率的な維持管理を行います。



2 利用促進のための取組

本施設は、年間を通じて幅広い世代に利用されています。こうした利用状況を踏まえ、初心者や中・上級者、ファミリー層からトップ選手まで、幅広い世代の利用を促進します。

また、山岳ＳＣ等と連携し、更なるスポーツクライミングの利用促進を図るとともに、秦野市の観光振興や地域振興の拠点づくりに取り組みます。

ア) スポーツクライミング競技の振興

レベルに応じたボルダー教室：初級、中級、上級と参加者のレベルに応じたボルダー教室を開催し、ニーズに合わせた競技振興を図ります。さらに、ステップアップを目指す方には、山岳ＳＣのリードやスピード競技を案内し、クライミング３種目の振興にも貢献します。

魅力あるサービス：スタッフによる初心者を対象としたワンポイントアドバイスを行う時間帯を設ける他、利用者を飽きさせないルートセットによりリピーター増を図ります。

各種サービスデー：平日や閑散期の利用促進を図るため、レディースデーやシルバーデーなど、ターゲットを絞った割引日を引き続き実施します。

スポーツクライミング競技の普及：小田急が行うイベント活動として、親子でボルダリング体験を開催するほか駅周辺イベント活動においても、秦野市が所有する移動・持ち運びが可能なボルダーパネルを活用した体験会を行います。

次世代アスリートの育成：日本山岳・スポーツクライミング協会及び山岳ＳＣと連携し、次世代アスリート育成強化拠点として国内の競技レベルの底上げに協力します。

イ) 山岳スポーツセンター等と協働したスポーツクライミングの利用促進

だれもが楽しめる山岳スポーツ普及イベントの同日開催等：競技人口の裾野拡大を図るため、初心者を対象とした本施設と山岳ＳＣとの同日体験会の開催に向けた調整を進めます。また、山岳ＳＣで開催している「視覚障がい者を対象とした体験クライミング」時の施設提供、障がい者減免利用案内の掲示等を行い利用促進を図ります。

山岳スポーツセンター等と連携した大会やイベントの実施：クライミングや登山に強みを持つ３施設（本施設、山岳ＳＣ、秦野ＶＣ）でイベントを連携して行い、クライミングの様々な魅力をＰＲすることで、クライミングの間口を広げ利用の拡大を図ります。

ウ) 市や県を代表する大会の開催及びサポート

市内競技者を対象としたクライミング大会「はだの丹沢カップ」開催のほか、国体予選となる「クライミングコンペオール神奈川」、インターハイ神奈川予選会、ジャパンカップツアーなどの大規模大会開催に当たっても、主催者や山岳ＳＣと連携を図りながら運営をサポートします。



クライミングの競技大会

エ) オリンピックのレガシーの継承

スポーツクライミングは、東京 2020 オリンピックで初めて正式種目となったことから、代表選手、有名選手のメッセージや写真展示を継続実施し、一過性のブームで終わらせることなく、レガシーの継承に貢献していきます。



オ) 多くの利用を図るために行う広報・情報発信の工夫等

本施設のほか、山岳ＳＣ、秦野戸川公園、秦野ＶＣと連携一体化した広報や情報発信を行うことで、相乗効果による効果的な広報を行います。

地域に根差した広報や交通事業者との連携（小田急の強みを活かした広報PR）、グループ代表が培った地域連携を活かした広報、独自の広報ツールの活用などを行います。

3 利用者対応・サービス向上の取組

子どもから高齢者、障がい者、外国人等、誰もが安全・安心・快適に施設を利用していただけよう、スタッフ全員が利用者との双方向コミュニケーションを重視したホスピタリティ溢れる接客を行います。

ア) 接客や情報共有、利用者との対話によるサービスの向上

窓口や電話での分かり易い対応や、対話による利用者サービスの向上に努めます。

イ) 平等な利用の確保

利用ルールの徹底や、全ての人に安全で快適な利用環境を提供できるユニバーサルなサービス対応などを行います。

ウ) ユニバーサルなサービスの提供

障がい者や高齢者、子育て世代、外国人利用者への適切な利用者対応を行います。

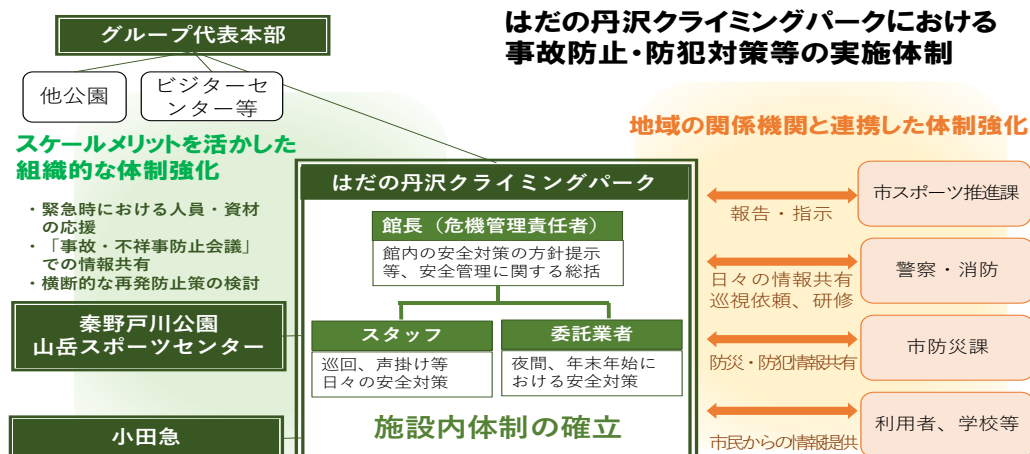
エ) 利用者ニーズ・相談や苦情等への対応と事業等への反映の仕組み等

相手の立場に立った真摯な対応と知識や経験を有する職員の対応、利用者ニーズを把握した継続的な改善に努めます。

4 事故防止等

ア) 日常の事故防止、緊急時の対応

館長を危機管理責任者とした体制の確立に加え、関係機関や地域等と連携した体制の強化、情報共有や巡視等の徹底により、事故等を未然に防ぎます。

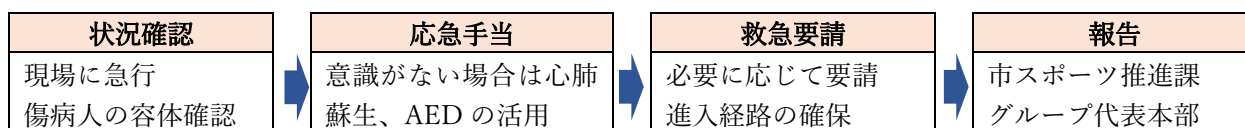


ボルダーの利用指導が適切にできる経験者を配置して利用者指導を行うとともに、日常巡視により不法行為等の防止に努めます。また、職員研修を実施します。

事故発生時には、人命を優先とした迅速な対応を行い、再発防止に努めます。

イ) 急病人及び新型コロナウイルス等への対応

急病人が生じた際には、次のように対応します。



また、救命に関する職員研修を行うとともに、AEDや救急キットを常備して必要に応じて応急措置を行います。

新型コロナウイルス感染症への対応としては、新型コロナの感染症法上の位置付けが5類に見直されたことから、見直し後の市の対応に応じた感染防止の取組を実施します。

ウ) 災害への対応

台風の接近や大雨洪水等の警報発表時には、リアルタイムな情報収集とともに、山岳SCや秦野戸川公園と連携した注意喚起等を行います。また、大規模震災への対応として、防災訓練や職員教育、避難者等の受け入れなどを行います。

5 地域と連携した魅力ある施設づくり

ア) 山岳スポーツセンター等と協働し、3つのクライミング施設を活用した地域経済活性化に繋がる取組

クライミング拠点としてのイベント開催：

クライミング体験会の実施に加え、施設前の広場などでのイベントを協働で企画検討し、クライミング拠点としての知名度向上を図り、秦野市の活性化につなげます。

地域に愛されるクライミング拠点としての広報・PR：

地元企業への働きかけや、教育機関の活動支援、子育て世代への情報発信、表丹沢エリアの活性化拠点としての魅力発信の調整などを行います。

「4館調整会議」による相互利用促進：

山岳SC、秦野戸川公園、秦野VCとの「4館調整会議」を定期的で開催し、連携強化による利用拡大とサービスの提供を行います。

イ) 地域団体等との連携

秦野市スポーツ協会や秦野市観光協会、県山岳連盟と連携した利用促進を図ります。

ウ) 地域に愛される施設づくり

日ごろのイベントや大会等の開催時に地域住民へチラシ・ポスターなどを配布し、本施設への理解を図りつつ、交流を図ります。

エ) 市内事業者の活用・市民の雇用

業務の一部を委託する場合は、特殊・専門的な業務を除き、地域に精通し、迅速かつきめ細かい対応が可能な市内業者を活用します。また、配置職員の雇用についても、クライミングの専門的な能力が必要な職員を除き、市民からの雇用を基本とします。

更には、地域雇用や高齢者・障がい者雇用の確保を図るため、秦野市シルバー人材センターや支援施設への業務委託や物品の調達などを進めます。

4 その他の事項

1 自主事業

本施設の設置目的を踏まえ、利用者への利便性の向上とスポーツクライミング競技の振興につながる自主事業を行います。

具体には、窓口での物販（靴下等）やキッチンカーの出店、自動販売機事業（附帯事業）を行います。

2 執行体制

本施設の設置目的を理解し、秦野市や県、地域や関係団体、利用者等に的確に対応できる者を館長として配置し、スタッフには、専門的な知識や経験を有する者を配置するなど、安定的な運営ができる体制、人材配置を行います。

3 コンプライアンス、社会貢献、個人情報保護

- ・施設の維持管理に関する法規や労働関係法規などの法令を遵守します。
- ・反社会勢力の排除や、守秘義務等の徹底を図ります。
- ・低炭素社会や循環型社会への貢献や、自然環境の保全に配慮した管理運営、環境マネジメントシステムによる実効性の担保などを行います。
- ・社会貢献活動や CSR の取組を進めます。
- ・SDG s（持続可能な開発目標）への取組を進めます。
- ・個人情報の保護に関する法律によるほか、グループ代表が整備した個人情報保護規程をはじめとした諸規程により、個人情報の適正な保護を行います。